

# インバウンドの「変化の兆し」をいち早く 都道府県別訪日外客数と訪問率

月次指標の早期推計：3月レポート

野村亮輔（副主任研究員）  
稲田義久（APIR 研究統括兼数量経済分析センター長）  
松林洋一（APIR 上席研究員）  
内容に関するお問い合わせは下記まで  
e-mail: contact@apir.or.jp

## ポイント

### ●4月発表データのレビュー：JNTO 訪日外客数

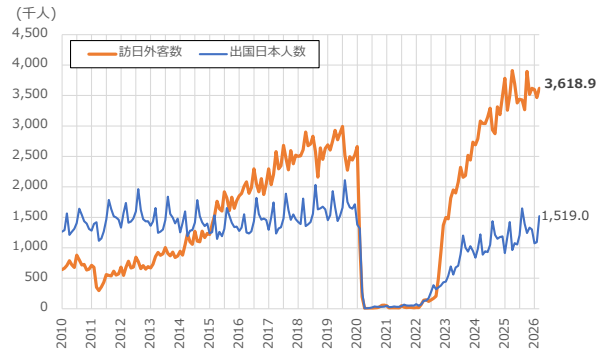
▶JNTO 訪日外客統計によれば(図1及び表4)、3月の訪日外客総数(推計値)は**361万8,900人**であった。前年同月比+3.5%、**2カ月連続のプラス**だが**小幅増加にとどまっている**。中国人客の大幅減少は続いているものの、韓国人客や台湾人客が全体を押し上げた。また、**同月の出国日本人数は151万9,000人**。同+6.7%と2カ月ぶりのプラス。ただし、19年同月比では-21.3%と依然コロナ禍前の水準を回復できずにいる。**1-3月期の訪日外客数は1,068万3,481人**、5四半期連続で**1,000万人超の水準となった**。前年同期比+1.4%と14四半期連続の増加だが、10-12月期(同+10.4%)から増加幅は縮小し、1桁の伸びにとどまった。なお、同期の出国日本人数は368万4,852人であった(同+4.8%)。19年同月比では-25.1%となっている。

▶訪日外客数のトップ5を国・地域別にみると(図2及び表4)、3月は**韓国が79万5,600人**(前年同月比+15.0%)と**最多**であった。次いで台湾が65万3,300人(同+24.9%)、米国が37万5,900人(同+9.7%)、中国が29万1,600人(同-55.9%)、香港が21万6,300人(同+3.8%)と続く。**日中関係悪化の影響もあり中国人客は4カ月連続で大幅減少**した。なお、中東地域は1万6,700人で同-30.6%大幅減少し、2カ月連続のマイナス。

▶**目的別訪日外客総数(暫定値)をみれば**(表5)、**1月は359万7,881人**となった。前年同月比-4.9%、2022年1月以来(同-61.8%)のマイナス。うち、**観光客は324万2,173人**となり、伸びは同-6.2%と2022年7月(同-28.9%)以来のマイナスに転じた。一方、**その他客は27万793人**(同+12.0%)、**商用客は8万4,915人**(同+0.2%)であった。

▶IATA(国際航空運送協会)が4月29日に公表した2026年3月の世界の航空旅客需要によれば、**全地域(国際線)の旅客輸送需要量は前年同月比-0.6%、座席供給量は同-6.2%それぞれ減少**した(図3)。米国とイスラエルのイラン攻撃により、中東地域が大幅減少(旅客需要量：同-60.8%、座席供給量：同-56.9%)した影響が表れた。4月8日以降、米国とイランとの停戦交渉が協議されているが、合意には至っておらず、依然として不確実性は高いままである。中東情勢の悪化により航空燃料価格の高止まりに加え、欧州では航空燃料不足による航空便の運航スケジュールの見直しが検討されている。このため、引き続き訪日外客にとっては大きな下押しリスクとなろう。

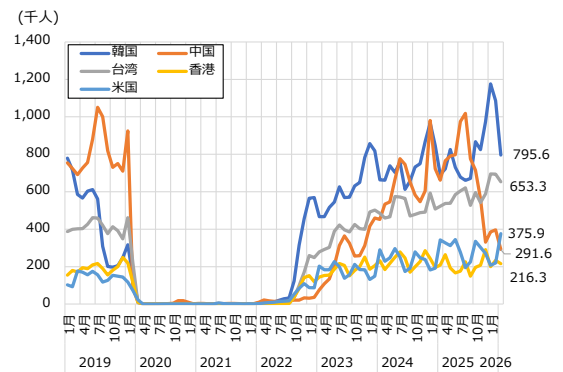
図1 訪日外客数及び出国日本人数の推移



注：2023年まで確定値、24年、25年12月は暫定値。  
2026年1月、2月は推計値

出所：日本政府観光局(JNTO)「訪日外客統計」より筆者作成

図2 上位5カ国・地域別訪日外客数の推移

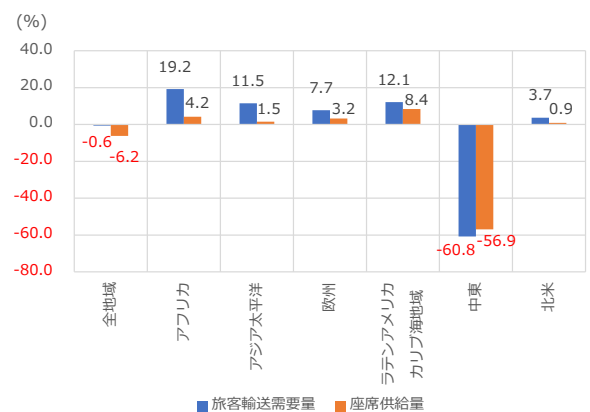


注：なお、TOP5の国・地域は値を表示している

出所：日本政府観光局(JNTO)「訪日外客統計」より筆者作成

図3 旅客輸送需要量及び座席供給量：2026年3月：

前年同月比



出所：IATA“Air Passenger Market Analysis March 2026”より筆者作成

\*なお、観光庁「訪日外国人消費動向調査」の訪問率のデータが2023年9月から公表が再開された。このため、中断していた訪問率の月次推計についてはデータの蓄積を待つて今後再開する予定である。

## トピックス 1

### ● 3月関西の財貨・サービス貿易の動向

▶ **関西 3月の輸出額は**前年同月比+13.9%と**18カ月連続で増加**し、増加幅は前月の同+3.7%から拡大した。また、**輸入額は**同+11.1%と2カ月連続の増加。結果、**関西の貿易収支は**+5,178億円と**14カ月連続の黒字**(図4)。輸出、輸入ともに増加したが、前者の伸びが後者の伸びを上回ったため、**黒字幅は**前年同月比+24.8%拡大した。結果、1-3月期の貿易収支は+8,581億円、14四半期連続の黒字となり、黒字幅は前年同期比+52.8%拡大した。

▶ 対中国貿易動向をみると(図5)、**関西 3月の対中国輸出は**前年同月比+18.0%(前月：同-5.8%)と**2カ月ぶりに増加**した。輸出増に寄与したのは、半導体等電子部品や非鉄金属等であった。また、**対中国輸入は**同+4.3%(前月：同+51.1%)と**5カ月連続の増加**。輸入増に寄与したのは通信機と重電機器等であった。

▶ **3月の関西国際空港**(以下、関空)への**訪日外客数は**77万3,313人であった(図6)。前年同月比-9.3%と4カ月連続で減少し、減少幅は前月の同-5.0%から拡大。**長引く日中関係の悪化で中国人客減少の影響が続いている**。また、日本人出国者数は32万1,631人であった。前年同月比+9.6%と2カ月ぶりの増加。なお、2019年同月比では-20.5%と前月の同-31.7%から縮小したが、アウトバウンド需要は依然低迷。結果、1-3月期の外国人入国者数は234万7,085人、前年同期比-10.9%と2021年10-12月期(同-67.1%)以来のマイナス。なお、同期の日本人出国者数は73万5,262人(同+6.4%)であった。

▶ サービス業の生産活動を示す**第3次産業活動指数**(季節調整済み：2019-20年平均=100)をみれば(図7)、**3月は**105.7で前月比-0.2%と**2カ月連続のマイナス**となった(前月：同-0.7%)。経済産業省は基調判断を「一部に足踏みがみられるものの、持ち直しの動き」と前月から据え置いた。また、同月の**対面型サービス業指数\***は106.3で同-1.2%と、**3カ月ぶりのマイナス**(前月：同+0.7%)。うち、医療、福祉(同-1.0%、3カ月ぶり)、生活関連サービス業、娯楽業(同-2.7%、2カ月ぶり)等が低下に寄与した。結果、1-3月期の第3次産業活動指数は前期比+0.8%と5四半期連続で、対面型サービス業指数は同+0.6%と6四半期連続でそれぞれ上昇した(10-12月期：第3次産業活動指数：同+0.2%、対面型サービス業指数：同+0.6%)。

▶ **3月の観光関連指数\*\***(季節調整済み：2019-20年平均=100)は(図7)、111.7と前月比-1.4%低下し、**2カ月ぶりのマイナス**(前月：同+2.1%)。うち、宿泊業、飲食サービス業(同-2.5%、2カ月ぶり)や劇場・興行団(同-6.1%、2カ月ぶり)等が低下に寄与した。結果、1-3月期の観光関連指数は前期比-0.6%と3四半期ぶりに低下した(10-12月期：同+0.8%)。

\*対面型サービス業は、「運輸業、郵便業」、「宿泊業、飲食サービス業」、「生活関連サービス業、娯楽業」、「学習支援業」及び「医療、福祉」を指す。

\*\*観光関連指数は第3次産業活動指数のうち、「旅客運送業」、「宿泊業、飲食サービス業」、「旅行業」、「映画館」、「劇場・興行団」及び「公園、遊園地・テーマパーク」の各指数の加重平均。

図4 関西 対世界貿易の推移

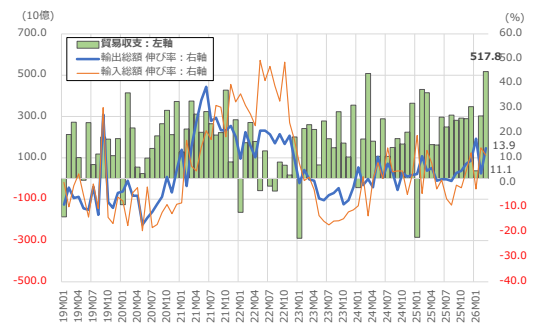
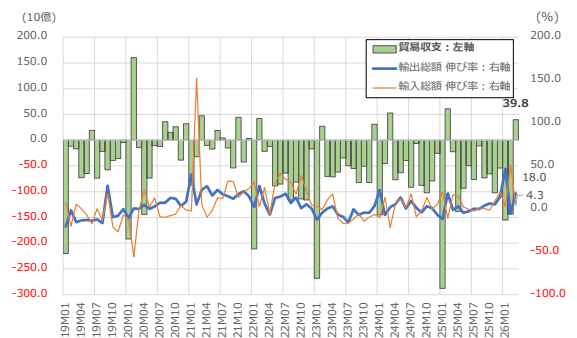


図5 関西 対中貿易の推移



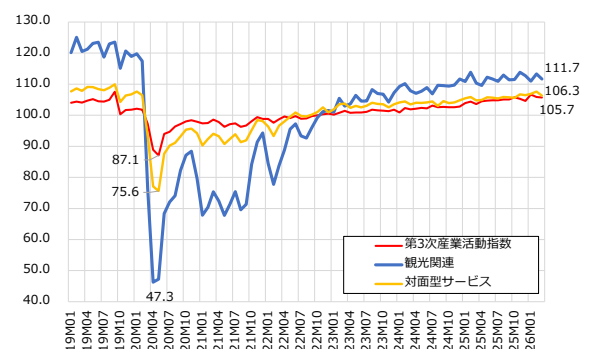
出所：『大阪税関貿易速報資料：近畿圏』より筆者作成(図4～5)

図6 関西国際空港 訪日外客入国者数推移



出所：出入国管理統計より筆者作成。2026年2月値は速報値

図7 観光関連 対面型サービス 第3次産業：2019-20年平均=100



出所：経済産業省「第3次産業活動指数」より筆者作成

## トピックス 2

### ● 1月延べ宿泊者数の動向：関西2府8県

▶観光庁によれば、1月の関西2府8県の延べ宿泊者数(全体)は**8,899.5千人泊**(表1)。**前年同月比-12.2%**と**4カ月連続の減少**となった(前月：同-8.6%)。日本人宿泊者、外国人宿泊者いずれも減少が続いているが、特に外国人宿泊者が大幅減少しており、宿泊者全体を押し下げた。

▶**日本人延べ宿泊者数は6,121.5千人泊**となった。**前年同月比-6.0%**と**4カ月連続で減少**した(表1及び図8)。府県別に延べ宿泊者数を降順にみれば、大阪府2,058.4千人泊と最も多い。次いで、京都府1,125.2千人泊、兵庫県1,031.6千人泊、三重県599.5千人泊、滋賀県306.1千人泊、和歌山県294.7千人泊、福井県206.3千人泊、奈良県178.7千人泊、鳥取県175.1千人泊、徳島県146.0千人泊であった。関西1月の**前年同月比(-6.0%)に対する寄与度**をみれば、**減少に寄与したのは、大阪府(同-6.1%ポイント)、三重県(同-0.9%ポイント)、兵庫県(同-0.3%ポイント)**等の5府県であった。

▶**外国人延べ宿泊者数は2,778.0千人泊**であった(表1及び図9)。**前年同月比-23.2%**と**7カ月連続で減少**し、**前月(-10.1%)に引き続き2桁の大幅マイナス**となった。府県別に延べ宿泊者数を降順にみれば、大阪府1,633.9千人泊、京都府866.3千人泊と2府への集中が続いているが、京都府では減少幅が拡大している。次いで、兵庫県144.8千人泊、和歌山県28.6千人泊、滋賀県25.5千人泊、奈良県25.0千人泊、鳥取県17.3千人泊、三重県15.3千人泊、徳島県12.5千人泊、福井県8.9千人泊であった。**前年同月比(-23.2%)への寄与度**をみれば、**大阪府(同-14.7%ポイント)、京都府(同-8.3%ポイント)と和歌山県(同-0.3%ポイント)の7府県が外国人延べ宿泊者の減少に寄与した。**

▶なお、宿泊料金と賃金との交易条件(現金給与総額/宿泊料金：2019年=100)をみれば、2026年3月は**78.3**となった。前年同月比-2.0%と36カ月連続の悪化だが、悪化幅は4カ月連続で縮小した(図10)。

図8 府県別日本人延べ宿泊者数 推移

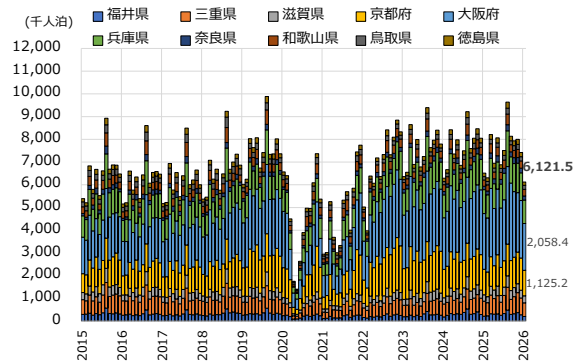


図9 府県別外国人延べ宿泊者数の推移

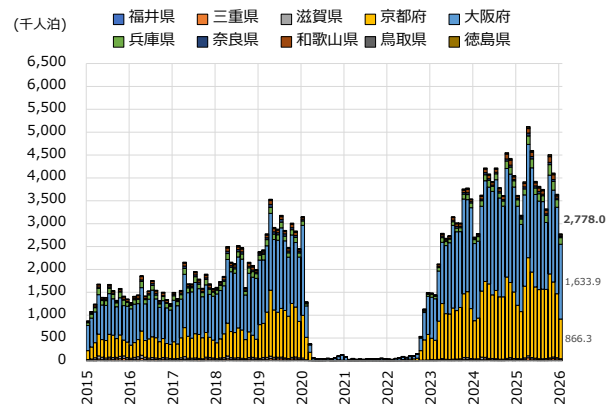


図10 宿泊料金と賃金の交易条件



注：交易条件は賃金(現金給与総額)を宿泊料金(消費者物価)で除した指数。2019年平均を100

出所：総務省統計局『消費者物価指数』及び厚生労働省『毎月勤労統計調査』より筆者作成

表1 関西 延べ宿泊者数伸び率：1月

	総数				日本人				外国人			
	延べ宿泊者数： (千人泊)	前年比伸び率： 当月(%)	当月寄与度 (%ポイント)	前年比伸び率： 前月(%)	延べ宿泊者数： (千人泊)	前年比伸び率： 当月(%)	当月寄与度 (%ポイント)	前年比伸び率： 前月(%)	延べ宿泊者数： (千人泊)	前年比伸び率： 当月(%)	当月寄与度 (%ポイント)	前年比伸び率： 前月(%)
福井県	215.2	-6.2	-0.1	-3.4	206.3	-5.8	-0.2	-4.7	8.9	-14.9	0.0	52.7
三重県	614.8	-9.6	-0.6	4.7	599.5	-9.3	-0.9	3.0	15.3	-19.5	-0.1	66.7
滋賀県	331.6	10.5	0.3	-3.2	306.1	10.2	0.4	-3.9	25.5	14.0	0.1	5.5
京都府	1,991.4	-13.0	-2.9	-6.6	1,125.2	0.2	0.0	-9.2	866.3	-25.6	-8.3	-3.9
大阪府	3,692.2	-20.1	-9.1	-14.1	2,058.4	-16.1	-6.1	-11.3	1,633.9	-24.5	-14.7	-17.6
兵庫県	1,176.4	-1.5	-0.2	-6.2	1,031.6	-2.1	-0.3	-9.1	144.8	3.1	0.1	21.1
奈良県	203.7	14.8	0.3	3.7	178.7	19.6	0.4	2.3	25.0	-10.9	-0.1	13.0
和歌山県	323.3	2.7	0.1	-6.0	294.7	7.1	0.3	-3.9	28.6	-28.0	-0.3	-18.5
鳥取県	192.4	20.6	0.3	-2.4	175.1	19.5	0.4	-4.9	17.3	32.4	0.1	38.0
徳島県	158.5	-7.1	-0.1	-5.3	146.0	-6.6	-0.2	-8.2	12.5	-12.3	0.0	32.5
<b>関西2府8県</b>	<b>8,899.5</b>	<b>-12.2</b>	<b>-12.2</b>	<b>-8.6</b>	<b>6,121.5</b>	<b>-6.0</b>	<b>-6.0</b>	<b>-7.8</b>	<b>2,778.0</b>	<b>-23.2</b>	<b>-23.2</b>	<b>-10.1</b>
全国	45,462.8	-7.0	-	-4.2	32,628.9	-3.3	-	-4.9	12,833.9	-15.3	-	-2.3

注：表中の赤枠は寄与度が高いTOP3を示している。出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」より筆者作成(図8~9及び表1)

## トピックス 3

### ● 2026年1-3月期訪日外国人消費の動向

▶観光庁によれば、2026年1-3月期の訪日外国人消費額(速報、全目的ベース)は(図11)、2兆3,378億円となり(10-12月期:2兆5,330億円)。前年同期比+2.5%、増加幅は前期(同+10.3%)から縮小し、1桁の伸びにとどまった。日中関係悪化が影響し、訪日中国人客の消費額が大幅減少した影響が表れた。

▶1-3月期の訪日外国人消費のトップ5を国・地域別にみれば(図12)、台湾が3,884億円(前年同期比+22.5%)と最多であった。次いで、韓国が3,182億円(同+12.7%)、中国が2,715億円(同-50.4%)、米国が2,592億円(同+16.6%)、香港が1,482億円(同-3.5%)と続く。

▶一般客1人1泊当たり旅行支出(全目的)は2万1,390円であった。前年同期比-12.7%減少し、2四半期ぶりのマイナス(10-12月期:同+3.8%)。国・地域別にみれば、シンガポールが3万8,377円(同+10.8%)と最も高い。次いで、香港が3万6,691円(同+0.6%)、台湾が3万1,319円(同-4.2%)、英国が3万113円(同+19.2%)、タイが2万9,229円(同-10.8%)となっている(表2)。

▶1-3月期の1人1泊当たり旅行支出を費目別で見れば(表3)、宿泊費が7,851円(同-4.8%)と最も多く、次いで買物代が5,380円(同-24.9%)、飲食費が4,898円(同-10.7%)、交通費が2,153円(同-11.9%)、娯楽等サービス費が1,094円(同-4.7%)と続いている。伸び率をみれば、すべての費目が前期から減少した。なお、平均泊数は10.3泊と、前年同期差+1.3泊増加した。

\*トピックス3は四半期ごとの掲載である。

\*\*「全目的」とは、観光・レジャー目的以外に、業務、留学、親族・知人訪問等の目的の旅行者を含む。ただし、1年未満の滞在者が対象である。

図11 訪日外国人消費額の推移

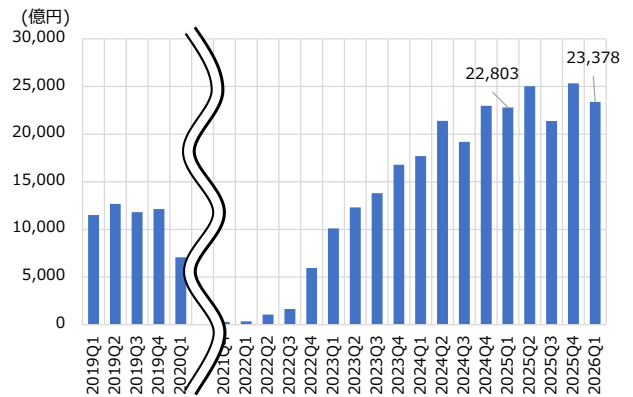
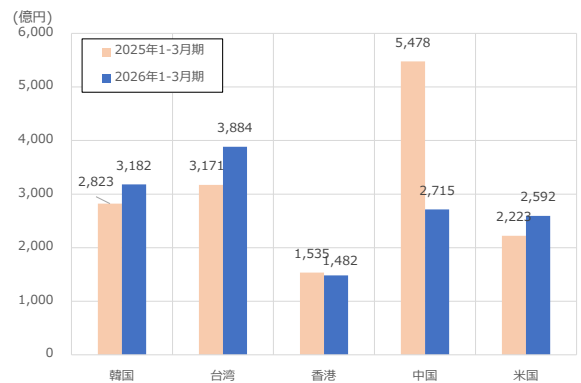


図12 訪日外国人消費額の上位5か国・地域：2026年1-3月期



注:「訪日外国人」には、観光・レジャー目的に加えビジネス目的や親族・知人訪問目的などで日本を訪れた外国人が含まれる。日本に居住している外国人は含まれない。「クルーズ客」は船舶観光上陸許可者。2025年までは確報、26年1-3月期は速報。  
出所:観光庁『インバウンド消費動向調査』より筆者作成(図11~12)

表2 国・地域別一般客1人1泊当たり旅行支出(全目的): 2026年1-3月期

国・地域	全体	韓国	台湾	香港	中国	タイ	シンガポール	マレーシア	インドネシア	フィリピン	ベトナム
2025年1-3月期(円/人)	24,507	27,435	32,705	36,475	30,585	32,759	34,645	26,521	14,102	12,016	5,953
2026年1-3月期(円/人)	21,390	21,591	31,319	36,691	15,621	29,229	38,377	24,876	14,540	16,241	5,916
前年同期比(%)	-12.7	-21.3	-4.2	+0.6	-48.9	-10.8	+10.8	-6.2	+3.1	+35.2	-0.6
国・地域	インド	英国	ドイツ	フランス	イタリア	スペイン	ロシア	米国	カナダ	オーストラリア	その他
2025年1-3月期(円/人)	7,285	25,257	19,606	21,270	21,333	23,006	21,313	27,019	19,504	17,483	17,483
2026年1-3月期(円/人)	19,874	30,113	22,883	16,717	24,400	19,076	17,783	26,906	23,724	27,930	20,826
前年同期比(%)	+172.8	+19.2	+16.7	-21.4	+14.4	-17.1	-16.6	-0.4	+21.6	+59.8	+19.1

表3 一般客1人1泊当たり旅行支出(全目的): 2026年1-3月期

1人1泊当たり旅行支出	総額	費目別						平均泊数(泊)
		宿泊費	飲食費	交通費	娯楽等サービス費	買物代	その他	
2025年1-3月期(円/人)	24,507	8,244	5,484	2,443	1,148	7,167	21	9.1
2026年1-3月期(円/人)	21,390	7,851	4,898	2,153	1,094	5,380	13	10.3
前年同期比(%)	-12.7	-4.8	-10.7	-11.9	-4.7	-24.9	-38.2	+1.3

出所:観光庁『インバウンド消費動向調査』より筆者作成。

表4 2026年3月 訪日外客数 (JNTO 推計値) (前年同月比)

国・地域	総数 Total			総数 Total		
	2025年	2026年	伸率 (%)	2025年	2026年	伸率 (%)
	3月	3月		1~3月	1~3月	
総数	3,497,755	3,618,900	3.5	10,537,875	10,683,500	1.4
総数(中国除く)	2,835,938	3,327,300	17.3	8,172,614	9,610,000	17.6
韓国	691,725	795,600	15.0	2,506,183	3,058,100	22.0
中国	661,817	291,600	-55.9	2,365,261	1,073,500	-54.6
台湾	522,886	653,300	24.9	1,623,663	2,041,500	25.7
香港	208,369	216,300	3.8	647,599	650,200	0.4
タイ	148,226	160,900	8.6	361,834	393,000	8.6
シンガポール	65,297	71,000	8.7	153,274	170,800	11.4
マレーシア	53,109	76,600	44.2	192,971	208,800	8.2
インドネシア	60,599	82,800	36.6	170,855	208,000	21.7
フィリピン	72,333	90,100	24.6	211,216	241,000	14.1
ベトナム	64,123	92,000	43.5	188,351	205,900	9.3
インド	32,967	41,400	25.6	62,111	75,800	22.0
豪州	84,761	96,900	14.3	313,713	344,700	9.9
米国	342,752	375,900	9.7	716,802	803,400	12.1
カナダ	68,083	79,900	17.4	154,881	179,200	15.7
メキシコ	14,612	24,800	69.7	34,728	55,500	59.8
英国	58,140	70,200	20.7	115,926	135,300	16.7
フランス	36,478	40,300	10.5	79,511	91,500	15.1
ドイツ	48,064	58,500	21.7	79,444	98,700	24.2
イタリア	25,494	31,500	23.6	45,343	55,700	22.8
スペイン	17,826	24,300	36.3	35,054	44,600	27.2
ロシア	18,823	23,700	25.9	29,422	41,200	40.0
北欧地域	16,595	24,500	47.6	37,792	49,900	32.0
中東地域	24,077	16,700	-30.6	46,759	44,200	-5.5
その他	160,599	180,100	12.1	365,182	413,000	13.1

表5 2026年1月 目的別訪日外客数 (JNTO 暫定値) (前年同月比)

国・地域	総数 Total			観光客 Tourism			商用客 Business			その他客 Others		
	2025年	2026年	伸率(%)	2025年	2026年	伸率(%)	2025年	2026年	伸率(%)	2025年	2026年	伸率(%)
	1月	1月		1月	1月		1月	1月		1月		
総数	3,781,629	3,597,881	-4.9	3,455,149	3,242,173	-6.2	84,776	84,915	0.2	241,704	270,793	12.0
韓国	967,100	1,176,089	21.6	932,312	1,139,195	22.2	13,498	14,189	5.1	21,290	22,705	6.6
中国	980,520	385,519	-60.7	874,723	276,181	-68.4	20,783	18,450	-11.2	85,014	90,888	6.9
台湾	593,431	694,551	17.0	577,054	676,050	17.2	5,941	6,747	13.6	10,436	11,754	12.6
香港	243,687	200,048	-17.9	239,357	195,589	-18.3	1,789	1,651	-7.7	2,541	2,808	10.5
タイ	96,811	115,100	18.9	91,227	109,245	19.8	1,952	2,008	2.9	3,632	3,847	5.9
シンガポール	45,707	48,476	6.1	43,790	46,282	5.7	1,432	1,614	12.7	485	580	19.6
マレーシア	75,003	72,477	-3.4	72,822	69,936	-4.0	941	1,057	12.3	1,240	1,484	19.7
インドネシア	63,230	73,999	17.0	50,861	57,091	12.2	976	1,118	14.5	11,393	15,790	38.6
フィリピン	72,185	79,187	9.7	55,142	58,041	5.3	5,263	6,556	24.6	11,780	14,590	23.9
ベトナム	50,415	52,871	4.9	15,177	8,452	-44.3	2,003	2,350	17.3	33,235	42,069	26.6
インド	16,189	18,533	14.5	5,658	7,298	29.0	3,523	3,875	10.0	7,008	7,360	5.0
豪州	140,185	160,750	14.7	137,392	158,109	15.1	1,334	1,143	-14.3	1,459	1,498	2.7
米国	182,556	207,784	13.8	164,271	188,970	15.0	8,683	8,375	-3.5	9,602	10,439	8.7
カナダ	42,301	48,040	13.6	40,093	45,703	14.0	797	752	-5.6	1,411	1,585	12.3
メキシコ	9,332	15,271	63.6	8,626	14,580	69.0	184	167	-9.2	522	524	0.4
英国	26,378	29,535	12.0	21,542	24,813	15.2	2,110	1,970	-6.6	2,726	2,752	1.0
フランス	16,515	20,648	25.0	12,430	16,387	31.8	1,426	1,408	-1.3	2,659	2,853	7.3
ドイツ	12,737	18,327	43.9	9,341	14,810	58.5	1,913	1,854	-3.1	1,483	1,663	12.1
イタリア	8,792	11,964	36.1	6,936	10,149	46.3	858	749	-12.7	998	1,066	6.8
ロシア	4,931	9,802	98.8	3,516	8,392	138.7	494	458	-7.3	921	952	3.4
スペイン	7,401	10,078	36.2	6,219	8,765	40.9	401	450	12.2	781	863	10.5
中東地域	11,873	17,525	47.6	10,559	16,257	54.0	656	567	-13.6	658	701	6.5
その他	114,350	131,307	14.8	76,101	91,878	20.7	7,819	7,407	-5.3	30,430	32,022	5.2

注：目的別訪日外客数の定義については、レポート No.79 図3の注参照。表中の赤枠は過去最高を更新した国及び地域  
出所：日本政府観光局(JNTO)、2026年4月15日付より筆者作成(表4~5)